

Recording Studio GOATEE Instruction Manual



Recording Studio
GOATEE



モニタミキサーをMackie OnyxからSSL X-Deskに変更、
それに伴い機材構成にも大幅な変更が加えられました。
新しいマニュアルが完成し次第更新いたします。
当マニュアルは旧バージョンとなりますので、ご参考としてご覧ください。

自宅DAWスタジオの延長で扱えるレコーディングスタジオ

■簡単な操作とハイエンドなスタジオクオリティー

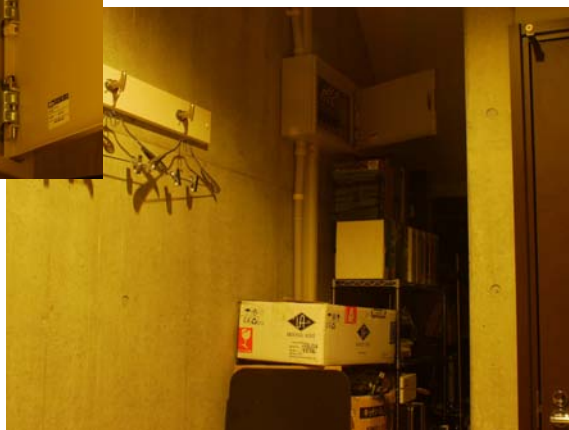
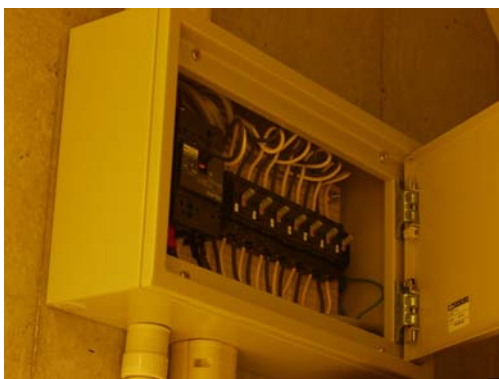
STUDIO GOATEE にはレコーディングソフト Pro Tools LE 8M-Powered がインストールしてある Mac Pro が常設しています。MACKIE ONIX1640i が PTLE8 のオーディオインターフェイス、そしてアナログモニターミキサーを兼ねています。Pro Tools の扱いと一般的なミキサー概念を理解する方であればすぐに扱えます。

ユニークな点として一見、Mackie 卓を中心としたローカルなレコーディングスタジオの様に見えますが、肝心の入力信号は AURORA AUDIO GTP8 (マリンエアトランス搭載 NEVE マイクプリのレプリカ) HA8 基と MANLEY LAB 16 x 2 MIXER の HA8 基を合わせた 16 チャンネルで録音できるシステムになっています。トップクラスのサウンドを簡単な手順で収録できます。Mackie1640i はモニターレーテンシーの心配がない使い勝手の良いアナログモニター卓として使うのみです。

※持ち込み PC、MAC との結線方法は別途参照。→ 持ち込み PC、MAC の接続
常設の Pro Tools LE 8 M-Powered 以外の DAW でもレコーディングセッションが行えます

■スタジオ機材用の電気を入れる&切る

ミーティングルーム奥、上にブレーカーがあります。
左端の主電源を上げると機材用に電気が入ります、下げると落ちます。



とりあえず録音する

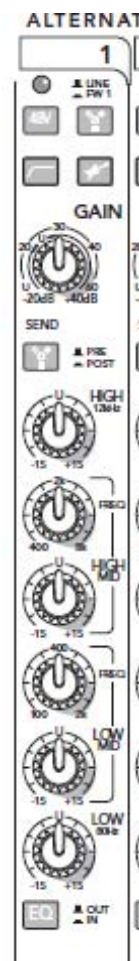
■マイクを接続する

1. マイクはデジケータの中、マイクケーブルはミーティングルームにあります。
2. 使いたいマイクとマイクケーブルを持って選んでブースに行きます。
(常駐マイク別紙参照)
3. 適当なスタンドを選んでマイクを取り付けたらマイクのオス側を近くの壁パネルの好きな所に差しこみます。
4. 壁パネル3つあり、それぞれのチャンネル番号は以下の通り、
 - 1-8 入り口側
 - 9-16 CR(コントロール側)
 - 17-24 奥側



■CR(コントロールルーム)でレベル調整する

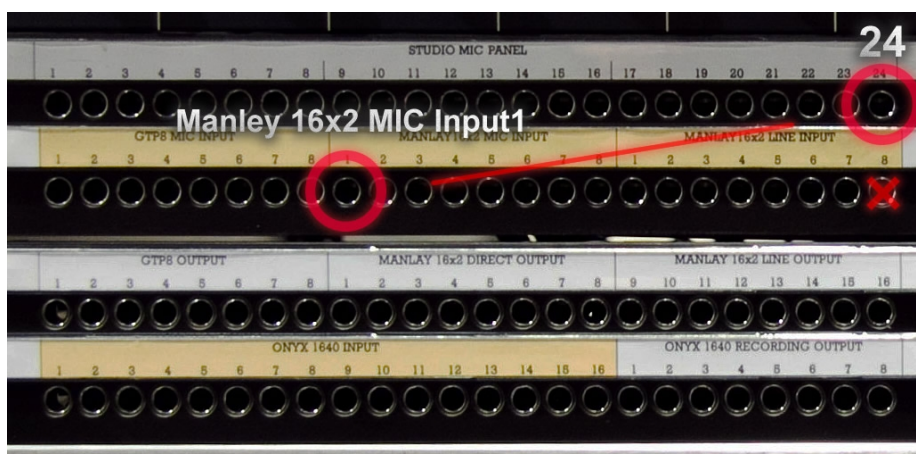
1. 壁パネルチャンネル1に挿したとしてコントロールルームに戻り、コントロールルームの右下、バンタムパッチパネルを見ます。
2. パネルチャンネル1は一番左上になり、パッチを挿さなければパネルチャンネル出力1の信号はそのまま AuroraAudioGTP8 (ヘッドアンプ=マイクプリ) のチャンネル1に入力され、信号はそのまま下へ流れて行き、ONIX1640i のLINE 1に入力されます。
3. GTP8 HA1 のインプットゲイン、アウトプットゲインを調整した後、ONIX LINE 1のゲインを上げるとDAWに音が入力されていることが確認できるはずです。



マイクプリを選ぶ

1. 仮にブースの壁パネル、チャンネル 24 にマイクを繋いだ場合、CR パッチパネル上、出力 24 の下には HA がありません。
2. Manley 16 x 2 HA を使います。

バンタムパッチケーブルを用意してパネルチャンネル出力 24 と Manley 16 x 2 の HA1 入力を結線します。



3. これでパネル出力 24 は Manley 16 x 2 HA1 に入力されました。Manley16 x 2 HA 1 の出力はそのまま ONIX の LINE 入力9に降りますのでマイクプリゲイン及び ONIX 側のゲインを調節すれば DAW の入力チャンネル 9 にレベルが来ていることが確認できるはずです。

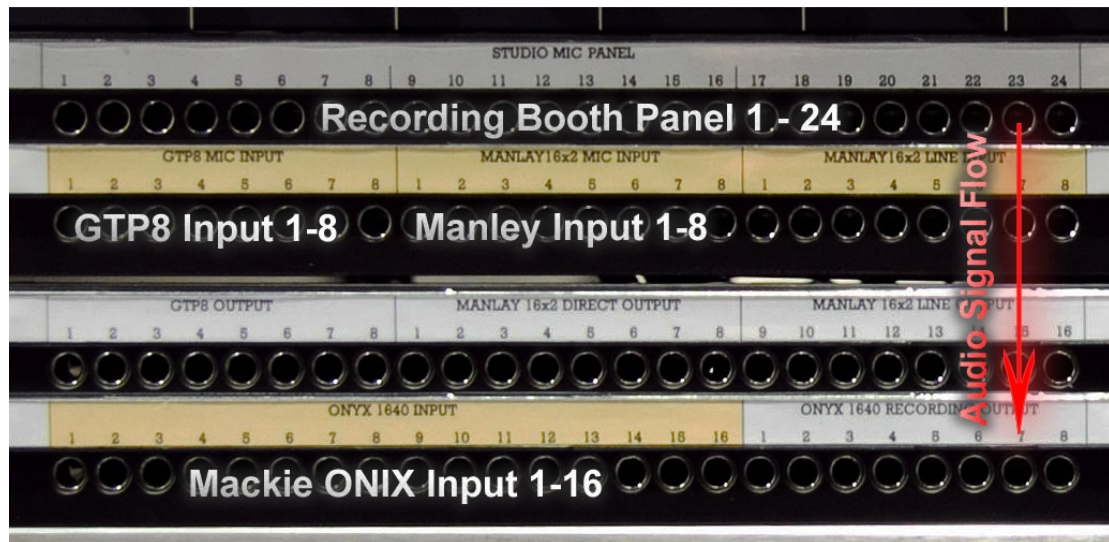


4. この仕組みによりいかなる壁パネルのチャンネルに挿しても好きな HA チャンネルの繋がられます。
5. 同様の手順を複数チャンネルで行うことにより、AURORA GTP8 8ch + MANLEY 16x 2 HA 8ch を使って最大 16 チャンネル同時に録音することができます。

6. パッチベイは特にパッチケーブルが挿されない限りは上から下に信号が流れます。よって、

7. AURORA GTP 8 8ch は ONIX 1-8ch の HA
MANLEY 16x2 HA 8ch は ONIX 9-16ch の HA

に対応するのです。



コンプを掛け録する

Studio Goatee には2種類のスタジオコンプレッサーが常設してあります。(2010/10月現在)

Universal Audio 1176LN [A]

FET コンプレッサー

Anthony DeMaria Labs ADL1000 [B]

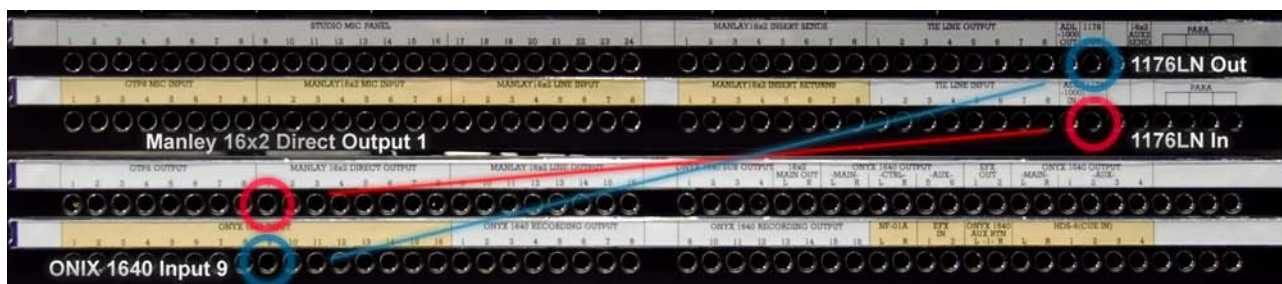
OPT コンプレッサー



これらをバンタムパッチベイを使って結線します。

■仮に MANLEY の HA のチャンネル 1 の後に 1176LN を結線します

1. それぞれのアウトボードエフェクトには[A][B][C]…とアルファベットが符っており、パッチベイの[A][B][C]…と連動してます。
2. Manley HA1 の出力とパッチベイ右上[A](1176LN)入力を結線します。次にもう一本のバンタムケーブルで[A] 入力の上にある[A] 出力と Manley HA1 出力のすぐ下にある ONIX LINE 入力 1 を結線します。



これで音声信号は Manley HA1 で増幅された後 1176LN でコンプレッションされ ONIX LINE 1 (DAWのチャンネル 1)に行きます。
(コンプレッションされた音で録音されます。)

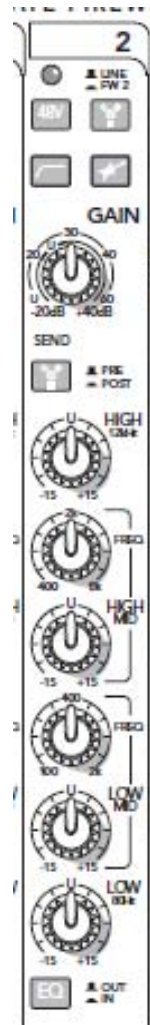
イコライザーを掛け録する

■ONIX1640i の EQ を使って掛け録します

1. ONIX1640i "GAIN" のすぐ下、"SEND" のセクションに FW マークのボタンがあります。
2. 通常は PRE 状態ですが、ボタンを押して POST にすることで EQ およびフェーダーの状態を録音する音に反映させることができます。
3. 掛け録したいチャンネルの ONIX1640i Eq セクションの EQ ボタンを押し、EQ します。
4. フェーダーの位置も録音レベルに影響しますので注意してください。

■HP フィルターの掛け録

GAIN の上、ハイパスフィルターボタンを押して HP フィルターを挿します。これは SEND の PRE、POST に関係なく適応できます。

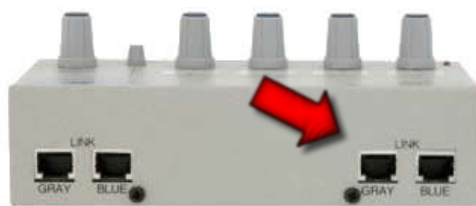


ブースにモニターを返す

FURMAN HDS-6 (CUE BOX)を使ってブースにいるプレーヤーにモニターを返します。

■接続する

1. SONY 900 ヘッドホンは CR(コントロールルーム)にあります。CUE BOX はブースにあります。
2. CUE BOX を結線します。BLUE と GRAY のケーブルを壁パネルの左下の CUE BOX 結線のコネクタと CUE BOX 裏の LINK にそれぞれ接続します。



3. 2 台以上使う場合は別の壁パネルから結線するか、開いている反対側の LINKを使って HDS-6 を直列します。

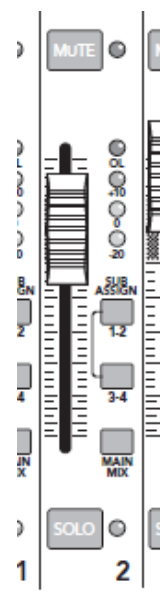
■モニターを送る

1. CUE-BOX の右端 STEREO つまみをセンターにします。



2. CRに戻り、ONIX1640i 各チャンネルの BUS 設定、MAIN MIX が On になっているか確認し、マスターセクションの MAIN フェーダーを上げます。
3. 録音レベルを調整した後、信号が入力されたチャンネルのフェーダー上げると ONIX1640i の MAIN OUT を経由して CUE BOX の STEREO にモニターが返ります。
4. ステレオで送られますのでフェーダー他、PAN 設定も対応します。

ONIX1640i の MAIN アウトは CUE BOX の STEREO つまみと対応しています。



特定の楽器を別に返す

特定の楽器のモニターを CUE BOX の別のチャンネルに送ってブース側で調整できるようにします



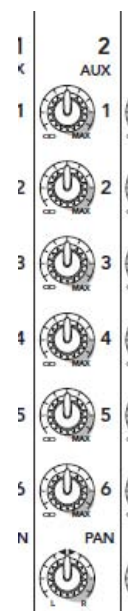
■手順

1. CUE BOX の 1～4 のノブをセンターにして SUB MIXES のボタンを ON にします。(INCLUDED)
2. 仮に ONIX1640i チャンネル 9 に他の楽器とは別系統でモニターを返したい楽器が入力されているとします。
3. ONIX1640i チャンネル 9 の BUS 設定を MAIN MIX を含めすべて OFF にし、AUX 1 を上げると CUE BOX の①ノブにモニターが返ります。
4. 各プレーヤーは①ノブのモニターレベルを好みの値に調整できるようになります。

※MAIN MIX のボタンをOFFにしないと CUE BOX の MON/EFF (STEREO) にも同じ信号が送られます。

5. 残りの②～④ノブにも同様に AUX2-4 で別系統でモニター返すことができます。

ONIX1640i の AUX 1-4 は CUE BOX の 1-4 つまみに対応します。

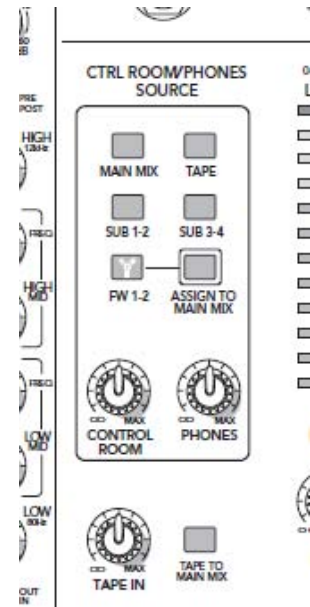


DAWの音を送る

DAW からステレオ状態のオケをブースに送る

■手順

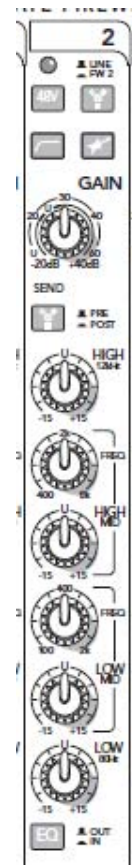
1. DAW 側で送りたいトラックの出力設定をインターフェイスの OUT 1、2にします。
2. ONIX1640i の CONTROL ROOM PHONES SOURCE セクション内にある FW1-2 ボタンおよび、右隣の ASSIGN TO MAIN MIX ボタンを ON にします。
3. CUE BOX の MON/EFF (STEREO) に送られます。
4. 出力レベルは DAW 側で行います。



DAW の特定のトラック or クリックを別チャンネルとしてモニターに返す

■手順

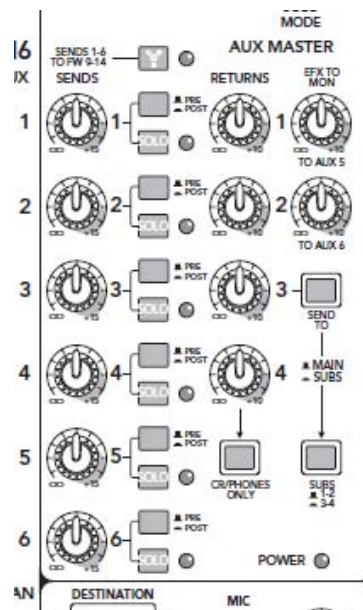
1. ONIX1640i の録音に使っていないチャンネルを利用します。
2. 仮にチャンネル 16 が空いていたとします。DAW の返したいトラックの出力設定を OUT16 にします。
3. チャンネル 16 最上部の FW ボタンを押すと LINE から FW16 になります。
4. これで DAW の OUT16 に設定されたトラック信号が ONIX 1640i チャンネル 16 に立ち上がります。
5. ONIX チャンネル 16 の MAIN MIX を含む BUS 設定をすべて OFF にして AUX 1 を上げると CUE BOX の①ノブに DAW の OUT16 の信号がモニターとして返ります。
6. 同様に AUX2-4 が②-④ノブに対応し、個別にモニター返すことができます。



リバーブ音を返す

■モニターにリバーブを返します

1. 仮に、チャンネル1に録音する歌手のモニターにリバーブを付加します。
2. AUX MASTER セクション内 RETURNS 1、2 のつまみをあらかじめセンターにしておきます。
3. コントロールルーム左下ラック内にある ALESIS のマルチエフェクターのプリセットの中から任意のリバーブを選択します。
4. ONIX1640i チャンネル1の AUX5 もしくは AUX6 を上げると CR 左下ラック内 ALESIS のマルチエフェクターに SEND 信号が送られ、エフェクト音になった信号は RETURN 1、2 → MAIN MIX → CUE BOX STEREO を通って歌手に返ります。



AUX5 → ALESIS INPUT 1 → RETURNS 1 → MAIN MIX

AUX6 → ALESIS INPUT 2 → RETURNS 2 → MAIN MIX

■モニター音を EQ で整理する

EQ したいチャンネルの SEND の FW ボタンが OFF (PRE) になっていることを確認して EQ ボタンを押し EQ する。(PRE の状態であれば録音される信号は EQ の影響を受けません)

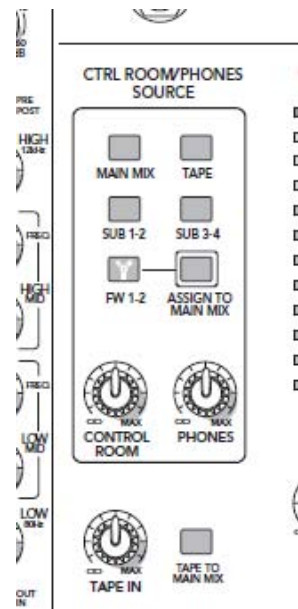
スピーカーで聴く

CR モニタースピーカーやヘッドホンで音を確認する場合、ONIX1640i の CONTROL ROOM PHONES SOURCE セクション内のボタンとつまみを使います

■CR モニタースピーカーから確認する

1. 聴きたいソースを選んで CONTROL ROOM つまみを上げます。
2. MAIN MIX :
CUE BOX の MON/EFF (STEREO) に送っている音を聴きます。
3. FW1-2 :
DAW の OUT1,2 の音を聴きます。

※ASSGIN TO MAIN を押してある場合でも MAIN MIX と FW1-2 はループフィードバックしない様になっています。



■ミキサーのヘッドホン端子から音を確認する

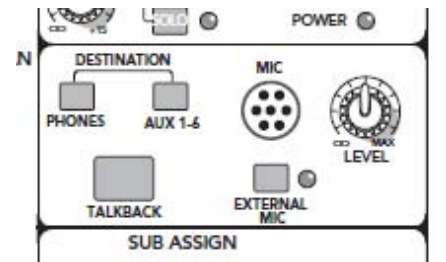
1. ヘッドホンを挿して PHONES つまみを上げる。

トークバックを使う

トークバックを使ってCRからの声を返します

■手順

1. DESTINATION の AUX1-6 ボタンを ON にします。
2. EXTERNAL MIC ボタンは OFF
3. LEVEL つまみを上げ、TALKBACK ボタンを押して話します。
4. フィードバックが起きる際は LEVEL を下げます。
(9時の位置未満で十分聴こえます。)



SUB ASSIGNを使う

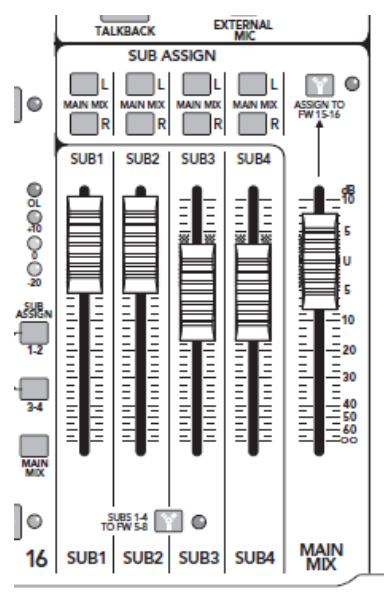
SUB ASSIGN の使い方として以下が想定されます

- ドラムなどのマルチ録音の際、各トラックを BUS にまとめてモニターレベルを一括調整する。
- CUE BOX①-④に送った信号(AUX 1~4で送った信号)を CR でモニターする。

■SUB 1-2 もしくは SUB 3-4 にドラムをバスにまとめる

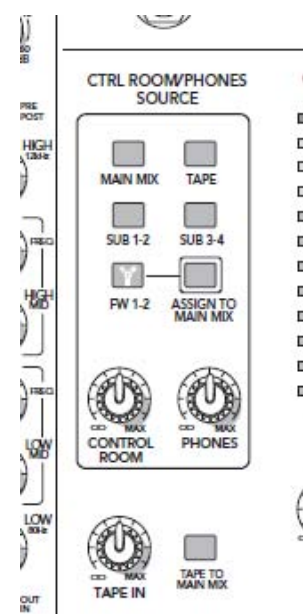
1. ドラムマルチの各チャンネルの BUS ボタンを MAIN MIX の代わりに SUB1-2 もしくは 3-4 を ON にします。まとめてモニターレベルを調整できます。
2. 送られた SUB ASSIGN 側の MAIN MIX への L,R 設定画面は以下ようになります。

- SUB1 L ボタンを ON
- SUB2 R ボタンを ON
- SUB3 L ボタンを ON
- SUB4 R ボタンを ON



■CUE BOXに個別に送った信号とMAIN MIXの音をまとめてCRスピーカーでモニターする

1. AUX1~4を使って CUE BOX①-④に送ったチャンネルは基本 CUE BOX の MON/EFF (STEREO)と被らないように MAIN MIX ボタンが OFF になっているはずです。
2. 代わりに使っていないバス (SUB1-2 もしくは 3-4) を ON にします。
3. SUB ASSIGN の MAIN MIX L R ボタンは OFF にします。
4. CONTROL ROOM PHONES SOURCE セクション内の SUB1-2、または SUB3-4 を ON にすると MAIN MIX とミックスされた信号がモニタースピーカーに送られます。
5. レベルは SUB のフェーダーを使って調節します。



持ち込みPC、Macの接続

持ち込んだ Mac、PC、MTR でもレコーディングできます

■Mac Book の場合

お気に入りの DAW がインストールされた MAC Book に ONIXi1640 のドライバーをインストールして持ち込めば FW ケーブル一本で ONIX1640i 結線してセットアップすることができます。(ドライバは Mackie 社の WEB からダウンロードしてください)

■Windows DAW の場合

Windows DAW を普段使っている方でも PC とオーディオインターフェイスと合わせて持ち込めばバンタムパッチケーブルでダイレクトアウトから録音したり、アウトプットをモニターに返すことができます。

■マルチトラックレコーダーの場合

コンピューター持込と同じく、バンタムパッチケーブルでダイレクトアウトから録音したり、アウトプットをモニターに返すことができます。

■Pro Tools 7以前のバージョンの方

Pro Tools LE M-powered 8は他の Pro Tools シリーズの ver8 と使い方に違いはありませんが使い慣れた自身ラップトップを使いたい場合や、ver7 以前の Pro Tools システムを使いたい場合は I/O ごと持ち込む必要があります。バンタムパッチからダイレクトアウトをもらったり、アウトプットをモニターに返すことができます。

■バンタムパッチ接続方法

モニターの周りをどれだけ ONIX 1640 に依存するかによって接続方法は変わってきます。持ち込み機器の仕様、接続ルーチンを事前に確認にして利用しましょう。

■持ち込みレコーダー、およびDAW入出力用スタジオ常設パッチケーブル

バンタム-3Pフォーン 24本(用例: 入力用16本、モニター用出力8本)
バンタム-キャノンオス 16本
バンタム-キャノンメス 8本
3Pフォーン → キャノンメス変換コネクタ 8個